

# 当期の業績

## 預金

90周年記念定期預金の好調を受け、定期預金が前期比139億67百万円の大幅な増加となったことなどから、預金残高は前期比142億18百万円増加し期末残高は5,292億35百万円、期中平残におきましても前期比75億51百万円増の5,296億83百万円となりました。

## 貸出金

事業性融資を中心とした新規開拓に取組むとともに、個人融資に対しては住宅ローン及び消費者ローンに取組んでまいりました。

事業性融資においては、中堅企業を中心とした新規開拓並びに取引複合化の推進に傾注した結果、貸出金月中平残は前期比60億72百万円の増加となり、期末残高においても前期比52億57百万円増加の2,509億75百万円となりました。

## 有価証券

有価証券運用は、日米欧における金融政策の動向を睨みながら保守的な運用を基本とし、国債、事業債、公社債、外国証券、投資信託、株式への投資を通じて将来に向けての安定的な収益確保に努めました。

結果として、有価証券は前期比88億45百万円増加し1,294億44百万円となりました。

## 外国為替

年間を通じ、ウクライナ情勢および中東情勢と日米金利差拡大による円安の影響が大きい中、商流把握が十分にできている既存先を中心に外為取引を取組み、今年度の実績は減少基調となりました。

今年度の取扱実績につきましては、貿易為替取扱高は前年比2,140千米ドル減少の15,367千米ドルとなりました。また、貿易外取扱高については、前期比4,007千米ドル減少の7,245千米ドルとなりました。

## 損益状況

損益面につきましては、資金利益が前年度から減少し、金融機関の本業から得られるコアの業務純益は前期比65百万円増益の9億60百万円となりました。また経常利益については8億15百万円、当期純利益は5億76百万円を計上することができました。

## 最近5年間の主要な経営指標の推移

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
経常収益(千円)	8,069,999	7,344,640	6,767,533	6,084,244	6,722,584
経常利益(千円)	1,213,851	889,016	1,023,274	747,498	815,286
当期純利益(千円)	678,779	664,572	712,840	522,448	576,866
業務純益(千円)	1,080,642	1,753,656	1,280,483	949,483	741,696
出資総額(百万円)	1,692	1,703	1,693	1,685	1,684
出資総口数(千口)	33,845	34,064	33,862	33,707	33,684
純資産額(百万円)	28,167	31,306	30,627	29,274	30,048
総資産額(百万円)	525,247	586,217	602,919	576,731	597,164
預金積金残高(百万円)	458,768	488,917	509,413	515,017	529,235
貸出金残高(百万円)	234,852	240,375	241,533	245,718	250,975
有価証券残高(百万円)	130,050	132,583	114,039	120,599	129,444
単体自己資本比率(%)	13.27	14.14	14.30	13.70	13.34
出資に対する配当金 (出資1口当たり)(円)	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5
役員数(人)	13	11	12	11	12
うち常勤役員数(人)	9	7	7	5	6
職員数(人)	349	364	365	355	365
会員数(人)	23,596	23,805	23,618	23,531	23,469

(注) 単体自己資本比率は、信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当かどうかを判断するために、金融庁長官が定める基準に係る算式に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。